

広島の「医学の歴史」を学ぶ



広島で作られた 日本で初めての骨格標本

展示室の奥、ガラスケースの中に立つ人体の骨格模型。これが、国の重要文化財に指定されている「^{しんかんぎ}身幹儀」です(展示はレプリカ)。江戸後期、広島生まれの医師・星野良悦が工人・原田孝次に作らせた日本最初の木製骨格標本で、通称「星野木骨」とも呼ばれています。旧広島藩の藩医・後藤家から寄贈されました。

良悦は木骨を江戸に持参し、『解体新書』を著した杉田玄白たちに披露しました。彼らは

